

令和6（2024）年度JAQG活動報告会について

1. はじめに

JAQG（Japanese Aerospace Quality Group：航空宇宙品質センター）は、世界の航空宇宙業界における品質活動をリードするIAQG（International Aerospace Quality Group：国際航空宇宙品質グループ）に対応した国内組織として、平成13（2001）年に設立、当工業会（SJAC）内に事務局が設置された。品質に関する国際統一規格の制定、認証制度の確立を図ることにより、品質改善とコスト削減を行うことを目的としている。設立当初のメンバー数79社から、現在518社に達し、多くの企業・団体のご指導を受けながら活動を展開している。

ここでは、令和7（2025）年2月7日にJAQGメンバーに向けて開催された令和6（2024）年度のJAQG活動報告会の様子を紹介する。

2. 報告会概要

COVID-19の影響も薄らぎ、活動報告会は令和4年度以降、対面会議として開催しており、今年度も対面およびウェビナー形式でのオンライン併用により開催した。開催場所は東京メトロ溜池山王駅近くの、ワイム貸会議室赤坂SGPである。

当日は会場参加が約40人、オンライン参加は延べ約180人であった。

JAQGは令和6（2024）年度に以下に示す活動目標の達成を通じ、我が国航空宇宙産業の品質向上、業務の効率化及びコストの引き下げを図ってきた。

活動報告会は日本航空宇宙工業会佐藤常務理事のあいさつに始まり、以下、高橋幹事長よりJAQG全体及び9100規格の動向、渡邊JRMC議長よりJRMC活動報告、各ワーキンググループ主査より活動報告、続いて上原



ワイム貸会議室 赤坂SGP RoomA

APAQGセクターリーダーよりIAQG及び
APAQG活動報告を行い、質疑応答の時間を

取ったのちに高橋幹事長のあいさつにより閉
会した。

令和6年度 JAQG活動報告会 アジェンダ

会場 ワイム赤坂SGP Room A +オンライン

日時 令和7年2月7日(金) 13:00~17:00

R7/1/29改訂



開始時間	所要	報告内容	報告者
13:00	(0:05)	事務局よりのお知らせ	(一社)日本航空宇宙工業会 JAQG事務局 部長 坂道 隆司
13:05	(0:05)	開会あいさつ	(一社)日本航空宇宙工業会 常務理事 JAQG事務局 次長 佐藤 孝嘉
13:10	(0:20)	9100シリーズの認証制度動向について ・ 9104-1規格改正の状況について ・ 9120国内認証制度立ち上げの状況について ・ Single-SDQの状況について	株式会社SUBARU QRM推進室 室長 高橋 伸英 (JAQG幹事長)
13:30	(0:20)	JAQG活動報告 ・ JAQG活動の今年度トピックスを中心に報告	株式会社SUBARU QRM推進室 室長 高橋 伸英 (JAQG幹事長)
13:50	(0:25)	JRMC活動報告 ・ JRMC活動状況等を報告	三菱重工業株式会社 防衛・宇宙セグメント 航空機・飛昇体事業部 品質保証部 飛昇体品質保証課 主席 渡邊 清 (JRMC議長)
ワーキンググループの活動報告(今年度のトピックスを中心に報告)			
14:15	(0:25)	規格検討WG活動報告 ・ SJAC規格の制定/改正状況概要を中心に報告 ・ 9100規格動向について	株式会社SUBARU 航空宇宙カンパニー QRM推進室 QMS課 小田 晴信 (規格検討WG主席) 三菱重工業株式会社 民間機セグメント 品質保証部 品質マネジメント課 主席 西口 潤 (IAQG9100規格 SDR)
14:40	(0:15)	特殊工程検討WG活動報告 ・ Nadcap 国内展開へのサポート活動を中心に報告	川崎重工業(株) 航空宇宙カンパニー 航空宇宙ディビジョン QM総括部 品質保証計画部 品質技術課 基幹機 堀田 彰彦 (特殊工程検討WG主席)
14:55	(0:10)	休憩(10分)	
15:05	(0:20)	スペースフォーラム活動報告 ・ IAQG/JAQGの活動状況について報告 ・ APRSAF 30会議の紹介	日本電気株式会社 エアロスペース・ナショナルセキュリティ クオリティアシュアランス統括部 品質基盤グループ プロフェッショナル 立岡 啓人 (SF主席)
15:25	(0:25)	SCMH WG活動報告 ・ 新規掲載資料の概要や検討中アイテムの開発状況を中心に ・ IAQG/JAQGの活動状況について報告 ・ SCMH説明会での質疑応答を紹介	株式会社IH I 航空・宇宙・防衛事業領域 資材部 購入品品質管理グループ 渡邊 祐介 (SCMH WG主席)
15:50	(0:10)	コミュニケーションWG活動報告 ・ 活動結果を中心に報告	(一社)日本航空宇宙工業会 JAQG事務局 部長 坂道 隆司 (コミュニケーションWG主席)
16:00	(0:20)	エンジン品質勉強会報告 ・ 活動結果を中心に報告	株式会社IH I 航空・宇宙・防衛事業領域 品質システム部 主任調査役 山本 啓士
16:20	(0:20)	IAQG/APAQG活動報告 ・ IAQG/APAQGにおける最新の活動状況を報告	川崎重工業株式会社 航空宇宙システムカンパニー 航空宇宙品質保証本部 土産 泰基 (APAQGセクターリーダー)
16:40	(0:15)	全体質疑応答	
16:55	(0:05)	閉会あいさつ	株式会社SUBARU QRM推進室 室長 高橋 伸英 (JAQG幹事長)
17:00		終了	

アジェンダ

以下、報告内容を示す。

3. 報告会の内容

報告内容（概要）を報告順に沿って以下に示す。（末尾かっこ内は報告者）

(1) 9100シリーズの認証制度動向について (株式会社SUBARU 高橋 伸英 JAQG幹事長)



高橋 JAQG幹事長（株式会社 SUBARU）

ここでは、AS/EN/JIS Q 9100、AS/EN/SJAC 9110、およびAS/EN/SJAC 9120を総称して、9100シリーズ規格という。9100シリーズ規格は、9100が設計・開発・製造の組織向け、9110が整備（MRO）の組織向け、9120が販売（resell）の組織向けとなっている。

令和4（2022）年1月に認証制度に関わる規格である9104-1が改定されたことにより組織は規格の適用範囲に応じて9100シリーズ規格、それぞれの認証を得る、（これを「認証制度の厳格化」という）こととなった。しかし、9100シリーズ規格の適用範囲の定義に不明瞭な点があるため、9104-1において「認証に適用されるAQMS規格は組織の認証範囲及び顧客要求に基づいて選択すること」とする案が検討されていることが報告された。ま

た、OASIS新バージョンへの移行トラブル等で9104-1移行の一時停止がIAQGから宣言されていたが、2024年10月のIAQG会議において、移行再開時期について明確な言及はされていないことも報告された。

なおISO 9001の改訂が2026年秋ごろの見込みであるため、9100の改定は9001の改定を待たずに実施するか、あるいは9001の改定後に9100の改定をするかについて議論はされているが、結論はまだ出ていない。

(2) JAQG活動報告

（株式会社SUBARU 高橋 伸英 JAQG幹事長）

JAQGの活動の概要説明、およびJAQGの現状の組織構成について紹介した。またJAQGのメンバー会社数と9100,9110及び9120に対する国内組織の認証取得数について紹介した。

令和6（2024）年3月に開催された令和5年度活動戦略・事業計画に基づき、IAQG活動に対応した国内への展開、国際AQM活動との連携、JAQG独自活動の推進及びステークホルダーとの連携強化を実施している。これらの活動状況の報告と共に、特に活動のトピックスとしてSingle SDO（Standard Development Organization；規格発行団体を全世界で一つの発行団体とし、8か国語翻訳版を同時発行して運営する構想）における翻訳スキームに関する調整の状況、また、9120の国内認証制度立ち上げ再開に向けての動きについて報告した。

(3) JRMC（Japan Registration Management Committee；航空宇宙審査登録管理委員会）活動報告

（三菱重工株式会社 渡邊 靖 JRMC議長）

9100シリーズ規格の認証制度では9001等の他のマネジメントシステム認証制度とは異なる



渡邊 JRMC議長（三菱重工業株式会社）

り、業界が認定機関や認証機関などの関係機関を承認・監視するしくみを構築することによって、制度自体の信頼性を高めている。JRMCは、日本の9100シリーズの認証基準の整備を行うとともに、認証制度の維持・管理活動を行っている。令和6年度の主な取り組みとして以下の報告を行った。

- ・ 認証制度の信頼性の維持・向上のため、ICOP（Industry Controlled Other Party Certification）スキーム規格に従った国内認証制度のオーバーサイト（認定機関2回、認証機関9回、審査員資格証明機関1回、研修提供者承認機関1回）を実施
- ・ 認証制度の改正版への移行、一時停止及び再開に向けた対応
- ・ 審査員の資格基準や認証プログラム基準（9104シリーズ規格、9101規格）のIAQG改正作業へ参画
- ・ SJAC9120認証制度の立上げ再開に向けた対応
- ・ JRMC会議／拡大会議／合同研修会の開催。
- ・ 関係機関に対する定期オーバーサイト結果の活用とOP（Other Party）監査員の育成

（4）ワーキンググループ（WG）の活動報告 （各WG主査）

各ワーキンググループ（WG）活動の今年度のトピックスを中心に報告を実施した。

（a）規格検討WG活動報告

（株式会社 SUBARU 小田 晴信 主査）

（三菱重工業株式会社 西口 潤 氏

IAQG9100規格 SDR）



小田 規格検討WG主査（株式会社 SUBARU）



西口 9100 規格SDR（三菱重工業株式会社）

IAQG 規格の制定・改正活動への参画、IAQG 規格及びIA 規格の発行状況、AIMM

(Aerospace Improvement Maturity Model) の開発状況、SJAC規格（9145および9163）記入様式データ公開について報告した。

続いて関連和訳規格の発行状況について報告し、規格の開発状況について紹介した。ここでは、SJAC9125「非納入ソフトウェアの管理(仮)」、IA9115「QMS 納入ソフトウェア」、IA9145「先行製品品質計画及び生産部品承認プロセスに関する要求事項」規格の概要について報告した。

SJAC9125については、2024年内の主な活動について紹介し、11月に発行されたことが報告された。また本規格の利用促進といった今後の課題についても報告した。IA9115については、2022年から2024年における主な活動状況について報告するとともに、今後の予定についても共有した。IA9145についても同様であるが、主な変更点として適用対象の明確化が行われたことを報告した。（以上、小田主査）

また、9100規格改正は投票ドラフト案までIAQG9100チームで作成完了したが、今までの規格改正が正しいプロセスで実施されているかを確認するため、IAQGより独立チームによるレビューを実施するよう展開があり、実施中。独立レビューチームの提案事項を今後規格に反映していく予定。現時点ではISO9001改正規格は2026年9月に発行予定であり、IA9100はその後に改正する予定であることを報告した。（以上、西口SDR）

(b) 特殊工程検討WG活動報告

（川崎重工業株式会社 堀田 彰彦 主査）

特殊工程検討WGは、JAQGメンバーがNadcap認証（特殊工程プロセスの国際認証制度）を取得・維持するための支援を行っており、今年度の主要な活動として以下を実施したことを報告した。



堀田 特殊工程検討WG 主査
（川崎重工業株式会社）

- ・ Nadcap監査基準であるAC（Audit Criteria）等、PRI文書の翻訳版／対訳版をJAQGメンバー専用ウェブサイトで公開（ACの掲示点数：60点）
- ・ Nadcapの理事会（PRI Board of Director）へのJAQG関係者の派遣
- ・ SAE（Society of Automotive Engineers）等への意見提言等の実施
- ・ Nadcap受審ノウハウの集約・公開

WGでは、長年に渡りPRI日本事務所との協業を行ってきたが、2024年5月のPRI日本事務所の一時閉鎖に伴いWG活動に大きな影響を受けている。特に、今年度はNadcapシンポジウム（PRI日本事務所主催）が開催されず、これまでのような協賛／支援を行うことが出来なかった。しかし来年度に開催された場合には引き続き支援を行う予定であることを報告した。

また、今年度独自の活動として、JA2024の併催セミナーとして開催されたSAEシンポジウムのQualityセッションにて特殊工程／Nadcapに関するプレゼンテーションを実施し、パラダイムシフトや新技術／動向、課題

／解決へのチャレンジについて説明した旨、報告した。

(c) スペースフォーラム活動報告

(日本電気株式会社 立岡 啓人 主査)



立岡 スペースフォーラム 主査
(日本電気株式会社)

スペースフォーラム（以下、SF）は、国内の宇宙業界が一体となって、JIS Q 9100品質マネジメントシステムを展開し、日本の宇宙製品・サービスの品質の著しい改善とコスト低減を図ることを活動方針としている。

今年度を通して、国内ニーズの規格／ハンドブック／ツール類への提言、課題や良好事例等の共有、国内外のステークホルダーとの意見交換を通じた関係強化を推進していることを報告した。

また、アジア太平洋地域において、JAQG SF戦略を反映し活動していることに触れ、一例として、アジア・太平洋地域宇宙機関会議（APRSAF-30（Asia-Pacific Region Space Agency Forum-30）2024年11月オーストラリアパース）にSF要員が参加し、IAQG/APAQG活動の啓発や、国内を含む地域内のステークホルダーと意見交換を実施したことが挙げら

れ、同地域において発展を続ける宇宙産業の品質マネジメント活動の状況を把握し今後の活動計画に反映していく旨を報告した。

(d) SCMH（Supply Chain Management Handbook）WG活動報告

(株式会社 IHI 渡邊 祐介 主査)



渡邊 SCMH WG 主査（株式会社 IHI）

SCMHとはサプライヤーのためのガイダンス文書、トレーニング資料及びベストプラクティスを集めた既存の規格を補足し、「どうすれば要求事項を満たせるのか」また、「どうすれば改善、向上を図ることができるのか」に焦点を当てた文書であり、その開発はIAQG戦略の重要な活動の一つである。

SCMH WGは、このIAQGにおけるSCMH開発に参画している。令和7（2025）年2月現在、6章52項目のSCMHが発行されている。SCMH WGでは、作成・改正されたSCMHの日本語翻訳作業を順次実施し、その成果をJAQGメンバー専用ページに公開、JAQGメンバーへの普及を図っている。

今年度は、IAQG SCMH文書2件の和訳版を発行、更に現在4件を年度内に発行する予定であることを報告した。また、IAQGにて



新しくなったJAQGパンフレット

SMS（Safety Management System）の章が2025年第1四半期に追加される予定と紹介した。

SCMH説明会について、今年度はウェビナー形式とし、全3回を計画した。昨年度のアンケート結果から要望の多かった「FAI（First Article Inspection）」「力量管理」「新製におけるヒューマンファクターズ」を各回のテーマとしている。

なお、本ウェビナーはJAQGメンバーに限定せず広く参加可能としている。本稿執筆時点で第2回までを実施、各回ともに250名を超える参加があった。第1回のアンケートによれば回答数165名の内、115名（約70%）が初めての参加であった。ウェビナー形式にしたことで参加しやすくなり、SCMHをより多くの方へ普及することができたと評価している。

(e) コミュニケーションWG活動報告

（JAQG事務局／日本航空宇宙工業会

城福 隆司 主査）

本WGではJAQGメンバーのコミュニケーション改善及びJAQGの広報推進を行うことを活動目的としている。

活動報告会では昨年度の活動報告会のアンケート結果の報告、JAQGウェブサイトの更

新状況、IAQGニュースレターの配信、SJAC会報への寄稿等について報告した。

また、令和6年度の新たな取り組みとして、令和6年10月に開催された2024国際航空宇宙展に合わせたJAQGパンフレットの改定、およびIAQG Podcast（Quality Horizon）の日本語化版（https://jaqg.sjac.or.jp/member/member_ship_only/iaqg-podcast/20250123_003093.html）の配信開始などについても報告した。



城福コミュニケーションWG 主査
（日本航空宇宙工業会）

(f) エンジン品質勉強会活動報告
(株式会社IHI 山本 博士 主宰)



山本 エンジン品質勉強会 主宰
(株式会社IHI)

本勉強会は、2022年秋からJAQGへ問い合わせが届いていた国際エンジン品質規格AS13100（SAEの一組織であるAESQ（Aero Engine Supplier Quality）Consortiumが制定）に応えるべく、2024年1月に設立を決定し、2024年3月から活動を開始した。

AS13100 QMSのさまざまな課題解決を話し合う場として、現在、IHI、三菱重工航空エンジン、川崎重工業、住友精密工業が勉強会に参加しており1回／2か月のペースで勉強会活動をWeb会議方式で開催している。

AS13100規格は、大まかには9100に9145要求を加え、さらに各エンジンOEM間のQMS要求の共通化を図ったものである。特殊工程についてはNadcap認証取得を求めている。認証制度は無く、QMS達成度は自己監査と客先監査で確認するのが特徴である。規格は現在英文版のみ。

エンジンOEMは民間航空機用エンジンの設計・製造について、既にAS13100を要求としてサプライヤーにフローダウンしており、

さらに次世代戦闘機用エンジンでもAS13100 QMSの適用が決まっている。

勉強会では、JAQG成果物のSCMH和約版やNadcap ACチェックリスト対訳版を活用できることをメンバーで共有している。今後は、2025年3月に発行が決まったAS13100 A改訂版について勉強していく。

本勉強会へ参加希望の組織はJAQG事務局へ相談していただきたい旨を呼び掛けた。

（AESQホームページ：<https://aesq.sae-itc.com/>）

(5) IAQG/APAQG（Asia-Pacific Aerospace Quality Group）活動報告
(川崎重工業株式会社 上原 美基
APAQGセクターリーダー)



上原 APAQGセクターリーダー
(川崎重工業株式会社)

IAQG/APAQG活動に参加する目的は、品質関連の国際会議に積極的に参加し、日本の航空宇宙産業の意見を国際品質規格や国際航空宇宙認証制度のルールなどに反映させ、品質改善・向上とコスト削減を図ることである。

令和6（2024）年は、APAQGバンコク会議

(3月)、IAQGブリュッセル会議(4月)、APAQG東京会議及びIAQG東京会議(いずれも10月)に参加し、年間戦略目標の立案、9100シリーズ他の規格の開発・維持、認証制度管理活動、航空当局・防衛・宇宙等のステークホルダーとの関係強化(JAQQメンバーの貢献度に対し年間表彰受賞)等について協議したことや、国際航空宇宙展(JA2024)でのIAQGブース出展に対しJAQQメンバーが貢献したことを報告した。トピックスとして、新規格9150について、背景や狙い(9100認証をもたない小規模組織に対する品質マネジメントシステム認証規格の制定)を紹介した。

4. おわりに

本活動報告会は、普段直接交流する機会の少ないJAQQメンバーの方に、9100関連規格を初めとするIAQG/APAQG活動の状況を直接お伝えするとともに、JAQQ活動に関する理解を深めていただくことが目的である。

出席者のアンケートでは9割を超える参加者から「満足」とのご意見を頂戴したが、報告会の最後に設けた質疑応答ではあまり活発な質疑があったとは言えず、今回は9100規格や審査の厳格化への移行時期と言ったメンバーが特に興味を持っていた情報について目新しい更新がなかったことを差し引いても、

内容の伝え方については課題が残ったと考えている。また、今回は会場約40人、オンライン約180人の参加を頂いたが、JAQQメンバー会社数518に対して参加者が少ない印象であった。

先のSJAC会報にて報告した内容であるが、IAQGが出展しJAQQが運用支援した2024国際航空宇宙展にて明らかになったのは、航空宇宙産業の関係者であっても、9100規格は知っているがIAQGやJAQQという組織については殆ど知られていないということであった。

今後数年間は、Single-SDO化による9100関連規格の発行スケジュールの変更、認証規格の厳格適用化、9001規格改定に伴う9100規格の改定など、関係者に対して大きな影響を与えるイベントが続くことになるため、あらためてJAQQ/APAQG/IAQGの活動内容について広く知って頂くとともに、報告会などの機会を通じて、適切なタイミングで必要な情報発信を行うことが重要である。

報告会当日およびアンケートで頂戴したご意見はJAQQ内で共有し、今後の活動の資とさせていただきます。

なお、2026年にはJAQQおよびAPAQG発足25周年となる節目の年を迎えるため、各種活動に係る広報にも力を注いでまいります。

今後ともJAQQ活動へのご理解とご協力よろしくお願い申し上げます。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 JAQQ事務局 部長 城福 隆司〕